



# 駒本の力

駒本小学校（家）

教育活動紹介便り

NO. 28

平成28年6月28日

## SNS文京小学校ルールについて 1

校長 田中 克昌

スマートフォンやタブレット等で利用しているコミュニケーション用のSNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）はとても便利なものです。ラインやフェイスブック等のアプリケーションが人と人とのコミュニケーションを助けてくれています。多くの保護者の方や地域の方も便利に使われていることと思います。私も家族との連絡、教職員との仕事での連絡、仲間とのコミュニケーションに便利に利用しています。

しかし、中高生の間では、SNS上でのトラブルからいじめを行ったり、いじめを行うためにSNSを使用したりと、便利さの裏に潜む弊害も多数報道されています。昨今では、小学生のスマートフォンやタブレットの所有率も上がり、小学生の間でもSNSを使つてのコミュニケーションが行われているようです。小学生の間でもSNS使用による友達間のトラブルが発生していると聞き及んでいます。本校でも高学年の児童がラインを使ってコミュニケーションをとっているという話を子どもたちから聞いています。きっと小さなトラブルが発生しているのではないのでしょうか。

現代社会は、高度情報社会であり、インターネットはすでに社会基盤として確立しており、その上であらゆるものが成立しています。ですから、このような時代では、コンピュータやスマートフォンやタブレット等の情報機器は、高度情報社会の中で生きていくには、欠かせないと言ってよいほどの道具になってきています。特に今の子どもたちにとっては、さらに情報化社会が発達した社会で大人として生きていかなければなりません。しかし、情報化社会が高度に進展し、コミュニケーションの形態が変化し、さらに便利な世の中になってきても、正直その利便性を生かして、上手に活用できる能力が子どもたちに育っているとは、言いにくい状態です。どうぞ一度、検索サイトで「SNS いじめ」と検索してみてください。様々な事例がヒットし、事の深刻さを理解していただけるはずです。もっとも子どもたちだけの問題ではありません。インターネットというのは、大人にも子どもにもとても便利であり、だからこそ、とても危険なものなのです。

情報モラルや情報発信の在り方の判断がまだまだ正しく行えず、コミュニケーションの言語能力や相手を思いやる心が未成熟の小学生にとっては、子ども同士だけのSNSでのコミュニケーションは、多くの危険が内在していると認識しています。

文京区立小学校長会（校長先生方の会）では、子どもたちをSNSの危険から守ると共に、便利な道具として利用できる子どもたちを育成したく、「SNS文京小学校ルール」を作成し、各校でセーフティ教室や保護者会で保護者のみなさんに啓発を行っていくことにいたしました。この後、何回かに分けて詳細について説明して参ります。

「自動車を運転するためには、運転免許証が必要です。なのに・・・」お考えください。

## ニコニコ言葉の一行詩

言語能力を高め、自他共に大切にできるコミュニケーション能力を育成するために、本校では昨年からの時期に「ニコニコ言葉の一行詩」に取り組んでいます。

「言葉ってとても大切です。チクチクした言葉を言えば、けんかになったり、いやな気持ちになってしまいます。でも、ニコニコした言葉を言うと、笑顔になったり、心が温かくなります。みんながニコニコできる「ニコニコ言葉の一行詩」にチャレンジしましょう。」と子どもたちに提示しました。素敵な作品がたくさん出てきましたので、そのいくつかを紹介します。

- そんなにいそがなくていいよ、ぼくがいるから。
- 失敗をくりかえすと、だれだっていつかはぜったい強くなれるはず。
- 「ありがとう」目と目を合わせて言ってみよう。友だちも私もうれしいよ。
- みんなの笑顔が広がり、うれしい気持ちもどんどん広がる。
- どんなに強い曇り空でも、ニコニコ言葉をつかうと晴れる気がするね。
- 一人でいると友だちのことを思い出す。まるで心と心の磁石のようだ。
- 不安になっている友だちに声をかけてあげた友だちがいた。見ていた私がうれしくなったのだから、声をかけてもらった子はもっとうれしいだろう。
- 顔は心の掲示板、気持ちや言葉は見えないけれど、きっと伝わるね。
- ありがとう、どういたしましては、優しい気持ちのキャッチボール
- 悲しい時もくやしい時も、笑顔で話しかけてくれると、何があっても笑顔になれる。
- 「がんばって！」あなたの一言で、一歩前に進める。
- 友だちが牛乳をこぼしてしまい、手伝ってあげたら、「いつもありがとう」と言われた。冷たかった手も、心の底から温まった。

このような取組は、ニコニコ言葉、チクチク言葉、フワフワ言葉等様々な呼び方で実践している学校が多数あります。本校では、ニコニコ言葉だけではなく、それを一行詩にしていることが特徴です。一行詩にすることで双方向性が発生し、自分の心も相手の心も考えた作品となってきます。一つ解説してみます。

- 困っているとき、いつも助けてもらった。今度は、自分も助けられるようにしたいと思った。

ニコニコ言葉だけなら「がんばって助けるよ」となるのですが、この作品ではそのような言葉では終わらず、「今度は自分も助けられるようにしたい」と結んでいるのです。まさしく自分が助けてもらったので、今度は自分も助けられる人になりたい、と言っています。きわめて豊かな心であると思います。

ではこのような実践の意味はなんでしょうか？それは、種蒔きです。子どもたちの心に一行詩の取組を通して「心の種」が蒔かれることが大切です。その種は、さらに日々の教育活動を通して、きっといつか花が咲き実を結ぶのではないのでしょうか。私たちは、長い時間をかけて根気強く子どもたちの心を耕し、心の種を蒔き、育てていきたいと願っています。